

漫画の力伝える

直方の建設会社社長講演 労災防止、工事PR



安全対策を漫画パネルにして現場に張り出す取り組みで知られる協和建設(直方市)の谷口正晴社長(67)が30日、八幡市民会館(八幡東区)で講演した。写真◎。谷口社長は「1分間に頭に入る情報は

漫画なら2000字分。話し言葉の3000字の7倍近い」と漫画パネルの分かりやすさを強調した。

北九州市の西部4区(八幡東、西、戸畑、若松)の主催で、管内にある建設会社の現場責任者約300人が聴講。作業員の安全意識をどう高めるか、ヒントを得ていた。

谷口社長は「外国でもそのまま通用する」などと漫画の情報伝達力を説明。「さまざまな危険可能性を想像しやすい」と作業リスクの見積もりにも有用と指摘した。

また「公共工事をする以上、子どもたちにも工事内容を理解してもらおうが必要」と述べ、字で「〇〇を直してきます」と掲示するのでなく、洪水など予想される危険や工事によって改善された道路を漫画で示すスタイルを提唱。最後に「労働災害防止だけでなく、さまざまな用途に漫画の可能性があると締めくくった。」

【梅山崇】